

生活道路における交通安全・防犯の安心・不安の形成要因に関する研究

社会システム計画学研究室2012年度卒業研究 岡村篤

研究の背景

安全・安心の取り組み → 全国の至る所で行われている

- 交通安全と防犯の話が混在
- 安心なまちづくりの定義があいまい

どんなことをすれば人々が安心できるのかが明確でない

- 安全 → 客観的データに基づく
- 安心 → 人々の主観に基づく

実際は安全である地域でも、人々はその地域に対して安心しているとは限らない

実際は事故や犯罪が起らない安全な場所



例
人通りが少ないなどの理由で人々は不安を感じている

安全と安心は必ずしも一致しないと考えられるため、客観的なデータのみで安心を高める対策を進めていくことは難しい

安心なまちづくりを進めていくには...

人々が「安心・不安」を感じる要因を把握することが必要

研究の目的

交通安全と防犯に着目して、実際の交通事故発生数や犯罪発生数だけでは評価できない、人々が感じる「安心」や「不安」がどのような要因から形成されているのかを明らかにする

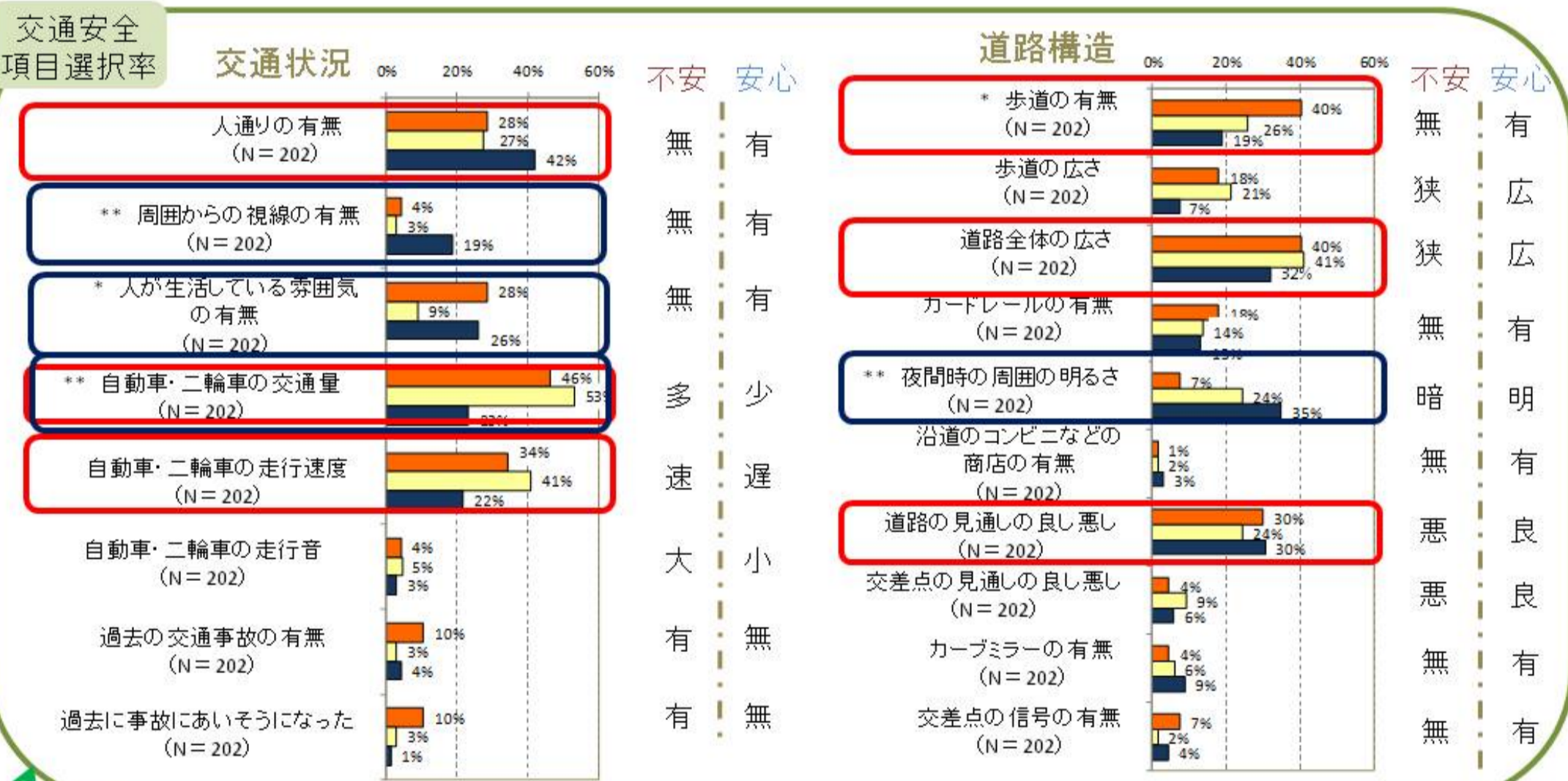
分析結果

経路に対する安心・不安を感じる理由の選択率

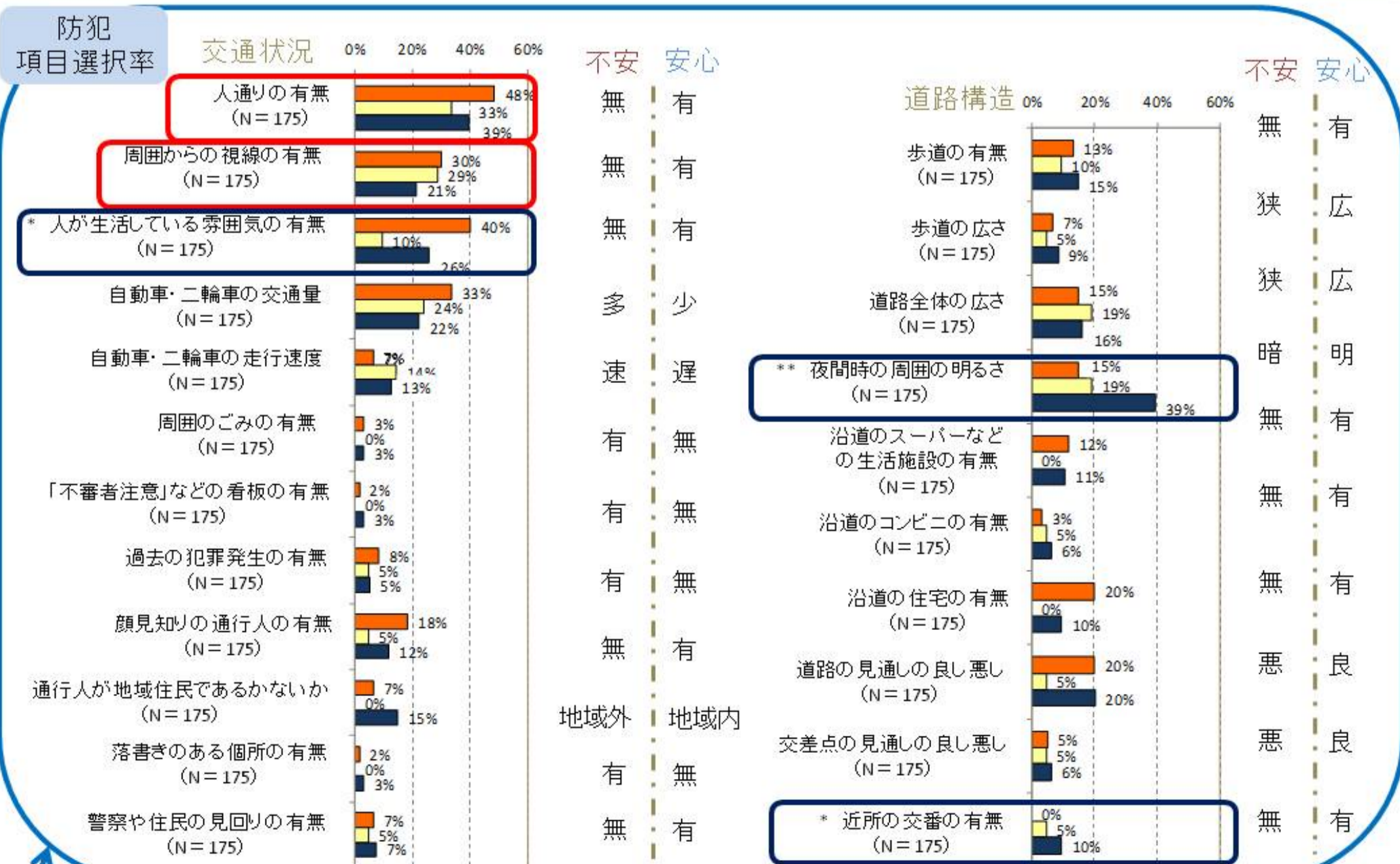
■ 日中 ■ 夕方 ■ 夜間

- 各項目の選択率の大小を把握 (選択率が多い項目⇒□で表示)
- カイ二乗検定で時間帯ごとの傾向を把握 (時間帯によって選択率の傾向が異なる項目⇒□で表示)

カイ二乗検定 **: 1%有意 * : 5%有意



それぞれの時間帯において、人通り、交通量、道路幅員、歩道の有無に関する項目が選択率が高い



それぞれの時間帯において、人通り、周囲からの視線、人が生活している雰囲気に関する項目が選択率が高い

分析対象地区と使用データ

調査名	交通安全・防犯を考慮した安心のできる生活道路を考えるためのアンケート調査	
	対象地域	妹尾地区
対象地域	福田・泉田地区	妹尾地区
配布・回収方法	無作為抽出後、ポスティングによる配布・郵送回収	無作為抽出後、ポスティングによる配布・郵送回収
調査時期	2012年12月	2012年12月
配布世帯数	1,000	1,000
回収部数	167	179
回収率	16.7%	17.9%

生活道路で交通事故や犯罪が多い地区に配布 (岡山県警察から頂いた交通事故データと犯罪発生データを元に選定)

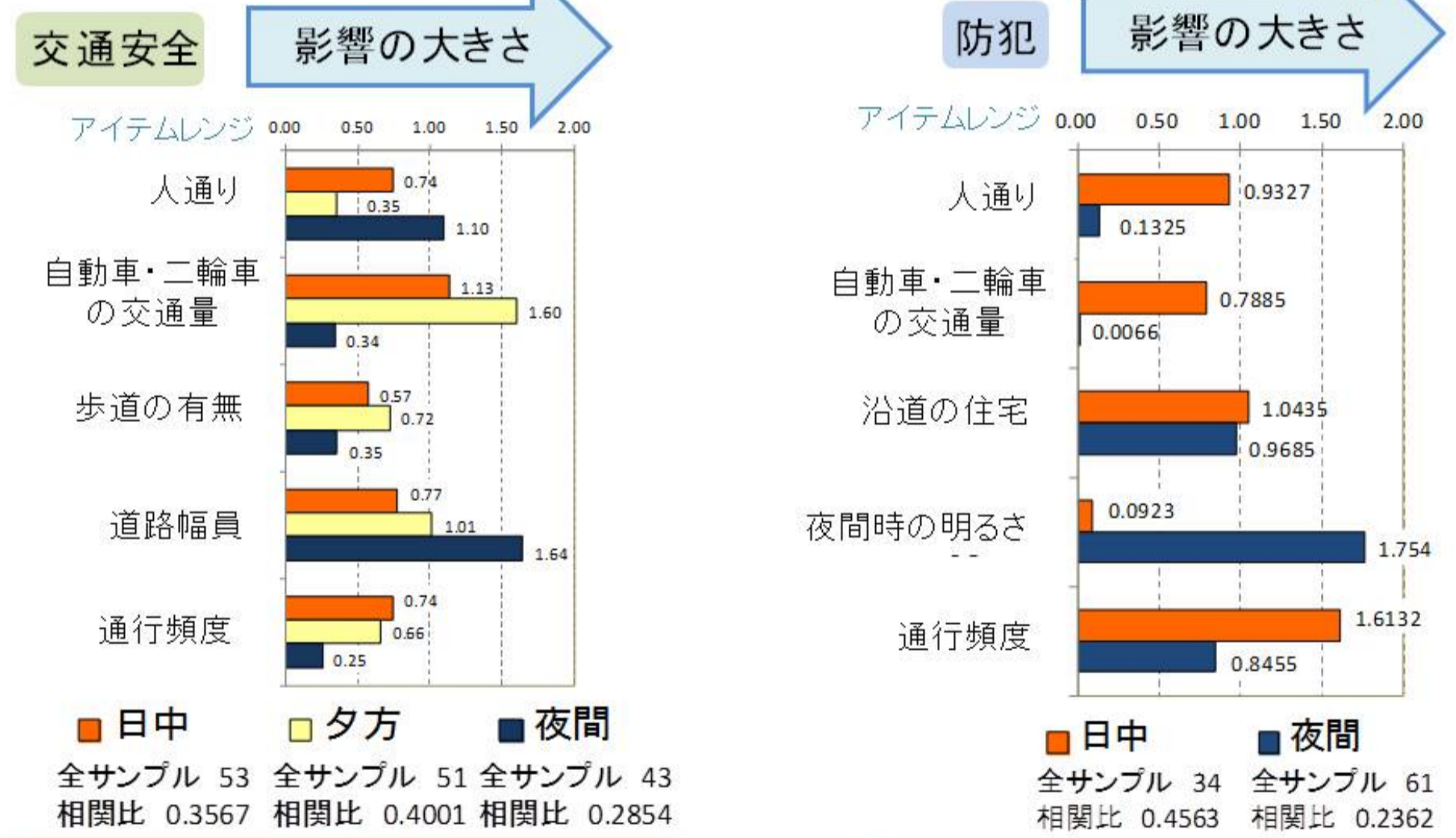
主な調査項目

- 周囲の状況、道路構造、沿道環境に関する項目を交通安全・防犯の二つの観点から質問
- 地図内に直線を引いた経路について、交通安全及び防犯に関する安心・不安の評価とその理由を把握 etc...

交通安全・防犯上でどのような要因が重要であるのかを把握するため、安心・不安評価とその理由の関連について分析を行う

安心・不安評価とその理由に関する要因分析

◆ 数量化Ⅱ類による要因分析結果

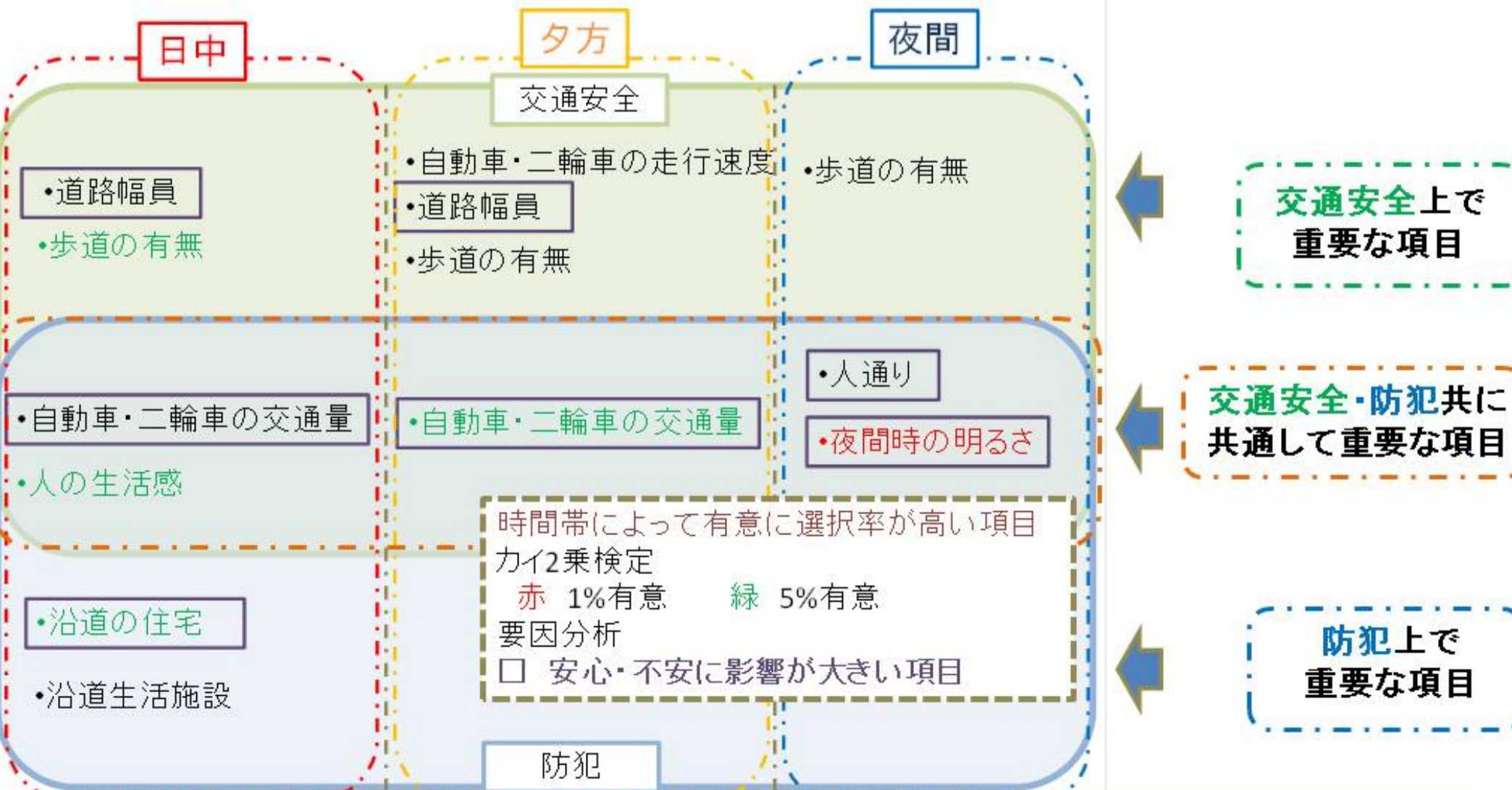


交通安全
交通量と道路幅員が経路の安心・不安に強く影響している

防犯
周囲の人や住宅の有無が経路の安心・不安に強く影響している

結論 交通安全・防犯について重要な要因をベン図で表示

各項目の選択率を元に作成 → 選択率が高い項目を各時間帯ごとに表示
□ 各時間帯で選択率が有意に増えているものを色付けで表示



- 交通安全は人通りや交通量、道路構造に関する項目が重要である
- 防犯は周囲の人の雰囲気や夜間時の明るさに関する項目が重要である
- 交通安全・防犯共に、どの時間帯においても人通りや交通量を含めた経路が人々に利用されることに関する項目が共通して重要である